

日本書紀傳 卅一卷十四

和書
一〇五二二號

百三十一

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156 (145)	
函號	特	85 1

内閣文庫



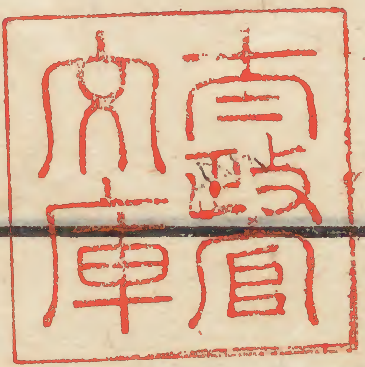
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





於 是 二 神 誅 諸 不 順 鬼 神 等 一

二 神 遂 誅 邪 神 及 草 木 石 類 皆
己 平 了 其 不 服 者 星 神 香 香 背
男 耳 故 加 遣 倭 文 神 建 葉 槌 命
者 則 服 故 二 神 登 天 也 倭 文 神

得云知ざる妙なる趣有り有る神語小あり有ける
小上小是我所燧火者云云云此まて禱白せり祀
詞ありふり云れし右七百六十三下小注
如く其より以下其杵築神宮小仕奉り可き由り
祢辞より上小禱白而り有る事ハ別あり事を思落
たり

○日本書紀傳三十一

○七百八十二

此云斯圖果以復命

經津主神武甕槌神共小皇祖天神の詔命を奉はり御
在り坐て大己貴神を以り元日隅宮に鎮奉り世御在
り坐て後直小復命させ給へる如く見ゆれば也然
るハ非りけり第一一書ハ故大己貴神以其子之辭報
字二神二神乃昇天復命而告之曰葦原中國皆已平竟
り有れば此ハ上六百七十一注る如く初度ハ復命
し給へるも其ハ大己貴神より其任給ふ可き御舍
の御事と祭祀の御事と神神幽事を治る可き事

此三の御願言御在り坐けるを執申して復命し給
へる度の事ありければ事足らざるなり古事記ハ
大國主神の鎮坐る後ハ故建御雷神返參上復奏言向
和乎之葦原中國之狀と有て中頃ハ其昇給ひし御事
を漏せり此第二一書ハ二神の初て天降り坐て
大己貴神と諾否の御問對御在り坐て後ハ其白給ふ
言を持して天小還上り世給ひける小皇祖天神より行
下り給へる大御命を肩持し御在り坐て此二神不生
り爲り万の政ごころ給へる狀ありハ甚愛たり然し
て其大己貴神の今已小避奉り世給ふ際ハ至りて乃

薦岐神於二神曰是當代我而奉從也吾將自此避去即
披瑞之八坂瓊而長隱者矣故經津主神以岐神為鄉導
周流削平有逆命者即加斬戮之所見たり如此
二神の荒振神共を言向させ給へる大己貴神の隱
れさせ御在り坐けし後の事あるを直に復命し給へ
る者と思ふは深く探索めざる後説に云者不左に有
けり然るに上四百三十三下四百八十六下小注に如く皇祖天神
より二神に命令せて天降し給へる大己貴神の征
伐ありしに非ず荒振る邪神の言向し遣し給ひけり
御事ありしに上文小所見たる其神の自言小如吾防禦

者國內諸神必當同業今我奉避誰復敢有不順者有
が如く此大神は小避奉り給ふ上は國內に在り
諸神の合つて順ひ奉り可きは是は其神に從奉れり
善神の限りて其餘の荒振神に於ては尤己貴神に
安むせさせ給ふ所非しける故に廣予を奉り岐神
を薦めさせ給ひて急ぐ小言向させ給ふ可き由を申
させ給へるなりければ是を以て二神の國平ら其後
小在りしに云るなり
但第二一書小是時歸順之首渠
者大神主神及事代主神云々
上を承て續けたる如く其大神主神ハハ大己貴
神に和魂神にて渡り給へれば其荒魂大神魂神に
共し其御許を放れさせ給ふ可きは非ず且此神に異
義有りて二神の事向を待て順らさせ給ふ云事有り

てすハ非ず又事代主神ハ一速ク天神ハ順奉ル也給
入ルハ此二神神御事を云ハ上ハ歸順者ハ仍カ褒
美ト有テ是時歸順之首渠者
心ハ云ハ事甚疑ハ不可ク文ハあり故今ハ此二神ハ御事ハ
古書ハ所見ハたラ一二ハを注シ後ハ其説ハ約シ可ク
先出雲風土記ハ楯縫郡意宇郡家東南廿二里一百八十步
布都怒志命ハ之天石楯縫直給之故云楯縫ハ見エたラ
ハ此國ハ御在シ坐シけル間其兵器ハ造直ト給ヒけ
る御事ハ御在シ坐シけル可ク其天石楯ハ袖武天
皇戊午年御紀ハ遂越狹野到熊野神邑且登天磐痛仍
引軍漸進ト有テ神氣盛アリ古ハ在テ後ハ傳ハる
ざる者ハありト此第ハ一書ハ天磐鞞ハ名見エ元尾張

公筑後風土記筑紫君
磐平山石石角を
六十枚有、此時石角を
用たり、此石は、
極み故石として作れり

風土記ハ三角石ハ云ハ有ル實ハ石ハ以テ斯
る兵器ハ作レりハ堅固ト称スるハ也
謂ハハ非ズありト此郷ハ和名抄ハ能儀郡ハ入リ楯縫
郡御前社ハ天乃石立命神社ハ又天乃石立神社ハ有ル春日
小社記ハ紀御社ハ云ハ御前石立明神ハ有ル石角ハ然
小ハ又同記ハ同郡山國郷郡家東南廿二里二石百廿
步布都怒志命ハ之國廻坐時來坐此處而詔是土者不レ止
欲見詔故云山國也即有正倉ト有ル國廻坐時ハ右
小引ハ第二一書ハ周流削平ト有ル是ハ當水ハ大
己貴神ハ隱サ給ヒりハ後ハ荒振神ハ言向シ御在
一坐ル時ハ御事ハありト是土者不レ止欲見ト宣ハへル

二下
三下
四下
五下
六下
七下
八下
九下
十下
十一下
十二下
十三下
十四下
十五下
十六下
十七下
十八下
十九下
二十下
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

此國小己くより御在し坐けり故小今去給ひむ
と爲す小臨みて思思ハセ給へる御言と所見たり万葉
四二十下小常不止通之君我六二十下小守山守居之山尔不入者
不止又石隱加我欲布珠子不取不止七十六下小朝霞不
止輕引九二十下小山高風之不息者十十四下小吾恋不止
本之繁家波又二十下小妹之家道不止通時不待友十一二十
三小我妹子我家當乎不止振四二十九下二十下小念者
志繁母又念者不止恋已曾益礼あじり不止十下小不絶
と云小同ト欲見ハ仁徳天皇三十年御紀小皇后四即
越那羅山望葛城歌之日口と有る中小和餞添餞明辞區

耳波と有を釋小吾見欲國也と注し又顯宗天皇御
紀小野麻登陸你称我保指母能婆と有る下小見欲
物也注せし万葉三二十下小春日者山四見容之又三
八儕立乃見果石山跡六四十下小山見者山裏見顔石十
一十四下小立月之見我欲君我十七三十下小夜麻可良夜
見我保之加良武十八二十下小杉夜時自久尔奈保之見
我保之又十九十六下小真珠乃見我保之御面尔と有る
如く見將欲き由あり今吉田村と云小光前大明神と
申す御社御在し坐を此經津主神小て渡り給ふ由
土人の説より佃右め如く此處小御心を留めさせ御

二神式小部カト山雲
國出雲郡同佐神社ハ
此二神ハ祀ルル風三記
島原郡未官知此津
社ハ今津守守神社
申上ル今津守神子堂
此社於今津國カトハ

けり趣あり小式社小載り世給ハガ此ハ風土記未
官知り中多々何れハ社小御在坐る甚可惜
き御事あり小式社其式社小收り世給ハガ證ハ此
成れり小式社稗天徳日命神社和名抄ハ能儀郡ハ郷
一社を限りて外ハ非ハハあり備此二神ハ神迹小
於てハ正しく傳ハるガ今知る由無きを姑く神
社ハ地名不就考ふ可きあり其ハ上五百八建部名
方神ハ事小就て注るハ如く神名式小阿波國阿波郡
建部郡神社名方郡多祁御奈刀弥神社坐又紀伊國
在田郡ハ名方ハ地名有小万葉九八章紀伊國時歌十
三首の中ハ三名部乃浦塩莫満鹿島在釣爲海人字見

公神名式小河内國若江
郡ハ神名式小河内國若江
郡ハ見ハハハ見ハ三
會録小負前三年七月十日
成中進河内國從三位孫加
布都命神古佐自布都
命神神階位位見ハ
ハハ神名式小河内國若江
郡ハ見ハハハ見ハ三
會録小負前三年七月十日
成中進河内國從三位孫加
布都命神古佐自布都
命神神階位位見ハ
ハハ神名式小河内國若江
郡ハ見ハハハ見ハ三
會録小負前三年七月十日
成中進河内國從三位孫加
布都命神古佐自布都
命神神階位位見ハ

変來六ハ有ハ由有ハ又七十五ハ何處可舟乘爲家
牟高島之香取乃浦從已藝出來船ハ有ハ近江國高島
郡あり神名式小同郡弓削神社見之ハハ小淺井郡湯
須神社を風土記小建部名賀多也ハ有ハハ所以無
ハハ又加賀國石川郡美知神社風土記ハ味智神社
去田八十三東三畝田所奈武甕槌神也大宝二年壬寅
始奉去田神礼ハ見之又和名抄郷名小能登國能登郡
加島加之ハ云有ハ万葉十七四十ハ能登郡後從音島津
發船云ハ有ハ音島欲里久麻吉守左之底ハ詠ハハ
其地あり小上五百六ハ注ハハ如く建部名方神ハ生

坐十八此郡あるを思ふ不追迫を爲給ひ一事を
御在し坐けりと思合す事を越中國新川郡
越後國頸城郡の思ひ鹿島社とて甚神なり神奈
備の立世給へり神代思めり小の處の状なり又駿
河風土記小鳥渡郡真弓神社一武甕槌之神也有る
此神号右の弓削神社と思合す可し又安辨郡廣伴神
神社所祭經津主神也有る此和名抄郷名小廣伴
比呂有る是乃万葉七四小鞠懸流伴雄廣伎大伴
止毛有る如く此大神の齋主と爲し帥とせ給ふ其部
の廣く大なるを称奉れり者ある可し又風土郡中具

羅神社所祭經津主神也活目入彦五十狹智天皇三年
甲午八月祭之有る中具羅の義思得ずと雖も己小
坐仁天皇大神世に神礼を加へさせ給へり上り水よ
少旧社あり又上四百四十六下十六小注なり如く神名式小伊豆
國賀茂郡多祁美加ふ命神社ハ武甕槌神神ト渡り世給
ひ穗都佐和氣命神社ハ經津主神ト御在し坐す趣
あり那賀郡布刀主若玉命神社ト有る此國ト御在し
坐し間ト生坐り御子なり子ハ陸奥國牡鹿郡香取伊
豆乃御子神社ト有る證と爲べし當國トハ殊ト由緒
有る神等ト多ク坐り
田方郡火牟須比命神社ハ右ト二神ト大祖ト御在し
坐し加理波夜須多祁比波爾命神社ハ武甕槌神ト御

父神小生事上四百六十八下注カ如一又此小
就テ思フ小劍刀若石末列命神社此ハ經津主神ノ祖ト
坐ス磐裂神根裂神ヲ祀ル小ハ非ズ今ノ巖谷村ニ
云フ小立セ給ヘルカ此地ノ多ク石ヲ出ス云フ其
事上四百四十三下云フ又同郡劍刀于夜ル命神社
ハ上四百六十二下云フ如ク稜威雄走神ト坐ル
火縁ノ由緒ト又武藏風土記ニ荏原郡甲鎬神社ト田三
十六束六毛田所祭經津主神也天智天皇三年三月甲
子始行神礼ト見エたるヲ甲鎬ハ次ニ舉ル常陸風土記
普都大神ノ御身ヲ隨テ給ヘルヲ御物ノ中ニ甲ノ
戈楯劍ノ所見タリ和名抄征戰具ト甲唐韻云鎧也
名典路此甲也釋名云甲者似物之鱗也民有リ若ク邪
神ヲ言フ向テ世御在リ坐ス此ト甲ヲ曾カ取

鎬ノ世御在リ坐ス依テ然ル名ノ傳ル可ク
さハ又足立郡植田神社孝宗天皇諱日本足彦國
押入天皇御宇庚寅三月所祭經津主神也ト有リ和名
抄郷名ト殖田ト字惠有リ此地ノ其庚寅ハ即位六
十二年ト當ニ可ク又神名式ト上野國耳樂郡貫前神
社名神大若神祭式ト或作拔鋒ト有リ本國神名帳トハ
正ニ位ニ拔鋒大明神ト見エたるヲ和名抄ト拔鋒郷ト有
少ク一宮記ト經津主命ト見エたるヲ此拔鋒ノ神名ハ上
小則拔ニ十握劍倒植於地踞其鋒端ト有リ御功ト依テ
号奉ル小ト神代ノ鎮坐ル可ク同帳ト從テ四

群馬郡正五位上鹿島明神

位下拔鋒若御子明神群馬西郡拔鋒若御子明神
見え碓氷郡從五位上鹿島明神群馬西郡從三位鹿島
明神あり有り又神名式小陸奥國黒川郡鹿島天足別
神社亘理郡鹿島伊都乃比氣神社鹿島緒名大神社鹿
島天足和氣神社信夫郡鹿島神社磐城郡鹿島神社杜
鹿郡香取伊豆乃御子神社鹿島御見神社行方郡鹿島
御子神社栗原郡香取御見神社あり有り西神の齋神の
多く御在り坐り神代小決めて此國より御言向の
御事共削の多く御在りけむを今知小便を得ざる事
惜む可し三代實錄貞觀八年正月十日丁酉の所常

陸國鹿島神宮司言大神之苗裔神三十八社在陸奥國
菊多郡一磐城郡十一標葉郡二行方郡一字多郡七伊
具郡一亘理郡二宮城郡三黒川郡一色麻郡三志太郡
一小田郡四牡鹿郡一と見えたり僅小右小載る
所僅小八社小過ず此小准りて香取神宮の齋神七
數多ありけむを右の如く唯二社のミありて傳ハ
くぬ事甚く歎ハし御事共あり如此く東國より其
二神の御子神等さへ多く御在り坐り就てい入り
此國小留りせ御在り坐り然後小復命申させ給ひけ
む御事を明り奉り可きあり然れば此小二神誅諸

公卿上等第六ノ事
去也推位受命和順
如古防宗古國神
同樂今大奉遊誰復敢
有不順者申給
其神和順不違
之六言誰復敢有不順
之六言誰復敢有不順
此言の例ハ

不順鬼神等之有甚容易御事ハ御在坐ざり
けり社倭文神社有少其火雷神ハ二神祖神ハ
從五位上火雷若御子明神ハ申すも見えたり倭文神
ハ此ハ謂ふ倭文神建彙槌命ハ御在坐七ハ珠
小由有少張ハ從一位倭文大明神ハ有少是より群馬
西郡從五位上倭文若御子明神ハ申すも有少先ハ
此を以て下照姬命ハ云ハハ甚く安あり
一〇不順ハ麻都呂波受ハ訓ハ古事記白檮原宮段
小言向平和荒夫琉神等退撥不伏之人等ハ有少ハ不
伏を訓ハ水垣宮段ハ今和平其麻都漏收人等日代
宮段ハ小碓命者甫平東西之荒神及不伏人等也又詔
云西方有熊曾建二人是不伏无礼人等又意礼熊曾建

二人不伏无礼聞着而又尔天皇頻詔倭建命言向和平
東方十二道之荒振神及摩都檮波奴人等又何擊遣西
方之惡人等而略今更平遣東方十二道之惡人等又幸
于東國悉言向和平山河荒神及不伏人等ハ有少
中ハ八惡字訓ハあり万彙二三十一ハ不奉仕立向
之毛二十五十ハ知波夜夫流神子許等年氣麻都呂倍
奴比等子母夜波之ハ有少何レハ荒振神又ハ道速
振神ハ對ハハれたり又此第一一書ハ有少逆命者即加
加斬戮歸順者仍加褒美ハ有少逆命ハ對ハハ歸順ハ
云ハ神武天皇戊午年御紀ハ饒速日命略帥其衆而歸

二年開元元年御紀
多原下村の事有り
有正公高祖の事有り

順焉神功皇后元年御紀韓征の所は新羅王啗豈可舉
兵以拒乎即素旆而自服と有り其小ハ服字を訓ウ雄
略天皇四年御紀小此疾飛來啗天皇於是蜻蛉忽然飛
來啗天皇蟲將云と有り其時の大御歌小波賦武志謀
飲哀枳添你磨都羅符と有を釋小麻都羅符謂仕也と
注セウ方葉十八二十小毛能乃布能八十伴雄乎麻都
呂倍乃年氣乃麻尔二十と有り令歸順マロハセの向の隨小と
云義十九二十小宇都曾美能八十伴男者大王尔麻都
呂布物跡定有官尔之在者天皇之命恐と有と大君小
奉仕マロ不可于物と定させ給マロ入りと有り後ハ物あり

空穗樓下十九小若君ハ此殿を竟マロてマロと睦マロ下
麻登マロ一奉給マロ源氏桐壺四小理マロ無く麻都マロとせ給
ふ餘マロハ然と可マロハ御遊マロの時マロ何事マロハ故有と事マロ
節マロハ先參上マロとせ給マロ有マロを注マロ不マロ纏マロ有り御前を
放マロさず召置マロと事ありと有り紅葉賀七小甚宜と心
狀形マロハ何心マロハ無く睦マロハ麻登マロハ引給マロ不マロ注マロ不マロ親マロと
纏マロハ心ありと有り紅梅四小此若君を内マロと有
と見付マロ給マロ不マロ時マロハ召麻登マロハ戲マロハ相マロ手マロ小為給マロ不マロか
と有と此と同言マロハ麻都呂布マロと云ハ睦マロハ近著マロ纏マロ
不意マロあるを麻都呂波奴マロハ其マロハ及マロハマロ疎マロハマロ放マロ

此たる者を云ふなり 然して其此方へ寄来ずあぐり 疎
て悪しき者の并に成れるなり 彼荒振神と云ふも
困り我小寄来ずしと 疎しきを云ふ本あるも思
合す可
○鬼神ハ上小彼地多有螢火光神及蠅色邪神
と有を承て次小葦原中國之邪鬼と見えたり 良海本小邪鬼神
と有を承て次小葦原中國之邪鬼と見えたり 其事
紀等小此と同文有を其訓同トハレども其ハ尋常
の神ありバこり有め天神の詔命を禦ぎ拒めり神等
を云ふ良ハこり古今集序小於述迦微と云言有
此ハ然小訓ハこりと思へども此細書ハ邪神又第
二一書小天有悪神と有るども一意ある所ありハレ

バ阿志伎迦微と訓ハこり傳十四卷下ハ云
書小月夜見尊の保食神の御爲小荒り御行の御在
坐ける小依り天照太神の御是悪神不須相見と答め
さ世御在り坐けるハ常ハ善神ハて渡り世給へるを
其事小限りて御言あるを此あるハ其とも異ハて
上九十七注ハ邪鬼あり此第一一書小謂ゆる殘賊
強暴横惡之神と云ふ是あり故出雲神賀詞ハ葦原
乃水穗國波如五月蠅水沛夜如火笔光神在
利田石根木根立青水沫元事問荒國在利有て下
小荒布神等年撥平氣と有ハ右を承たり小て此ハ鬼

神云所不同トを以て右等ノ凡てを此ノ一ノ約
めたるノ小心を著て見ル可ク所ニあり者あり其惡神ト
同意あり由ハ伊勢風土記ノ神倭磐余彦天皇御宇惡
神伊不加理五人民火氣發起而天下不安佐留仁云
此世不堪火氣伊勢多賀佐山嶺仁造石宅住居元元日
別神殺戮荒振神罰不導見え是是知べテ
備上六百六注カ如ク大己貴神乃以平國時
所救之廣乎授二神曰吾以此乎平有治功天孫若用此
身治國者必富平安有第一一書乃為岐神於二
神曰是當代而奉從也有一車乃實其神乃
御自從奉セ給可ク今惡レ給ル
して廣乎を奉り岐神を御導為從奉り給入

るも己命の仕奉る給ふ御意あり事是代我而も
申さ給へるを以て見奉り知べし若て二神の岐神
を御導為言向セ御在し坐けり其結句常陸
風土記信太郷條古老曰天地權輿草木言語之時自
天降來神名稱普都大神巡行葦原中津之國和平山河
荒梗之類略有此普都大神聞ゆ即經津主
神坐事申す更あり此草木言語之時云上
下注せる此後有草木成能言語云是復
此一を書して他を略けり者ありければ其心して見
てさあり巡行右七百八引る出雲風土記布都
十五下

努志命之國廻坐時と有る此第二一書小故經津主
神以岐神爲鄉導周流削年と有る富川ウ万葉二十
ト小久尔米具留阿等利加麻氣利由伎米具利と有る
事の状多ウ山河荒梗之類ハ古事記日代宮段ハ山河
荒神と有る依テ訓べ一上七下注せる此ハ螢火光
神及蠅色邪神の類ハ水火不就テ妖を成せる鬼神ハ
して又山河不依テ災を成せる者と所見たるハ伊勢
風土記ハ天日別命殺戮荒振神哥守不遵坂山川定地
邑者也と有る如くして唯ハ山河の荒振神を撥平
せ給へるの事有る其地を定めさせ給ふありけり

故此小二神の國土ハ在る荒振神を言向させ御在
して唯ハ復命一給ふハ有るハ山川の堰を定
め群神の居地まで定置させ御在して坐て天神御子の
天降り御在して坐て初國所知食む御下構をハ委曲小
撥させ御在して坐りて坐て此を見奉り明らむ可く
ある有ける然るハ將軍を遣さるる法ハ崇神天皇十
耗然遠荒入等猶不受正刑是未習王化耳其選群御遣
行四方令知朕意と有る四通將軍を差一給ひ因詔之
曰若有不受教者乃舉兵伐之既而共殺印綬爲將軍と
見之其翌十一年の所ハ四通將軍以平戎夷之狀奏焉
是歲夷俗多歸國內安寧と有る照し讀て知るあり若く武甕槌神の御事ハ
其常陸風土記ハ天地草昧以前諸祖天神俗曰謂賀味曾弥賀

味魯味魯會集八百万神於高天之原時諸祖神告曰今我御
孫命光宅豐葦原水穗之國自高天原降來大神名祢香
島天之大神天則号曰香島之宮地則名豐香島之宮と
有レ其細書レ俗曰豐葦原水穗國所依將奉上始留尔
荒振神等又石根木立草乃片葉辞語之畫者狹蠅音色
夜者火笔誤作光明國此乎事向平定大神從上天降供
奉之と見えたり此レ古レ天地草味以前と有レ右レ
天地權輿草木言語之時と有レ同レくレて彼殘賊強
暴横惡之神の有レ世を云レふレ俗曰以下レ古老の
傳ふレ所を云レふ者あり其荒振神と云レふレ此レ注す
是記者の文を云ふ

鬼神等の事より石根木立草の片葉をい言語しと狹
蠅音色火笔明をい共其皆荒振神の所作をい外其
等とい別レり上レ荒振神と云レふレ其木石水火小
屬レて妖を爲レす所以の者有り本を明せレるレ是上天の香島宮小御
在レ坐ける神の天降り事向レせ給ひレ豐香島宮小
鎮り坐す所以を云レふレ次レ其後至初國所知美麻
貴天皇之世奉幣云レるレ細書レ俗曰美麻貴天皇之世
大坂山乃頂尔白細乃大御服坐而白梓御杖取坐識賜
命者我前乎治奉者聞食國平大國小國事依給等識
歸岐于時追集八十伴緒舉此事而訪問於是大中臣神

聞勝命答曰大八島國所知食國止事向賜之香島國
坐天津大御神乃舉教或事者天皇聞諸即恐驚奉納前
件幣帛於神宮也神所見之此崇神天皇の大御世
小諭聞えさせ給へる神託ありける其御託の肯
を承りて神聞勝命の申さる言ふ汝所知食國止事
向給ひしと有此平國の御時の御事あり其汝の言
ハ天神御子の御事を申させ給ひ事向賜之と云ハ右
小引ふ此字事向平定て有る是より即此小謂ゆる
不順鬼神等を退除為させ給ひ御事ある事申す
更なりり是亦荒振神を言向させ御在し坐て天神

御子の食國と定奉らせ給へるよ其鬼神等を言向
給へる幽と頭との畏を降やり小立させ給へる御
政ある趣を見奉り知べき所以ある小非すや殊小東
國の地小香取鹿島二神の裔神等の御在し坐し其鬼
神等を退除させ給ひ其押へる爲て其地を守護しめ
給ひ然後小復命し給へる者て云事さす予が見る所
ホてハ灼然と事小ころハ思えたりけり然して天神
日向國小天降り御在し坐て後東國の方小供奉の
神等をし遣はされし鎮させ給へる趣小見えざる
ハ右の如き所以有る御事ある可きを此二神とだ小
申せば其鬼神等を誅ひ給ふのこみり止め者如
く淺くしく人と思へるハ心苦
しうて今此説不及でる者なり
○誅ハ都美那布訓

令撥平の結あり其説上一八十一小注也○不服の官本
小字信那波奴しやわ金澤本小字信那波那流しやわと訓る其小従
ふ可し下る服字を字信那比奴しやわと訓之神功皇后元
幸御紀一二は於是天皇聞之重發震怒大起軍衆欲頓
滅新羅略中是時新羅國人悉懼不知所如則相集共議之
殺王毒以謝罪應神天皇三年御紀小是歲百濟辰斯王
失礼於貴國天皇故遣云々噴讓其无礼狀由是百濟王
殺辰斯王以謝之雄略天皇十四年御紀小根使主罪有
ければ天皇聞驚大怒深責根使主對言死罪を實臣
之愆と有る謝を以死罪を以訓之皆天皇の大御趣

小歸順ひ奉れる由あり若て此言ハ通證ハ引れる
神武天皇戊午年御紀小諾此云字每那利ハ見え疾路
天皇御紀詔小然其人方天地乃字信奈由流之授賜
流人仁不在あり有る諾と一ハ爲て本佗の言を聴き
容る由あり起れる言あり少し罪ハ伏す事を云ふ
右ハ同ト然るを此の不服又服字共小逆頃の人の引
大凡麻都呂布又志多賀布ハ義ハ於て然ハ異ル
さふ事ハ大ハ○星神ハ富志能迦微ハ訓べ一ハ信御
紀ハ日神月神の御事ハ詳あり星ハ神在あり
云事ハ是始あり其星の成れる傳し且て無事

るが故に未其説有を聞ず此に於て天象を云時ハ誰
し其説ハ困む事ある故に先其名義より明ら
る爲て借其始を説べざる先和名抄ハ星説文云星
萬物精上所生也和名保之と有て古今其名相異る事
無一借本志の本ハ火産靈神火雷神と申す神名の
火と同一事あり志ハ風神を級長津彦命級長戸邊命
と申す志ハ氣の事あり嵐と云ハ飄と云ハ虹
と云ハ志是なり然る時ハ本志と云て火氣の言と成
れり但此火氣ある星ハ謂ハ恒星を云るが又緯星
と云て天日の周緯を旋ルと有り此ハ何れなるも皆

國ハ五星の類なるが其ハ此地球の如く山岳河海
を具ハたる物ハ其質を云時ハ闇体なるが故に天
日の光を稟て光有る物なるが遠く此を望む時ハ
恒星の唯火氣のみあり緯星ハ光輝有る然し其差
異を見分る可くざる程ハ彷彿にるが故に此方よ
りハ其をも此をも共ハ星とい云めり故其恒星の始
の事ハ傳三六四五ナハ注せし事を今抄出て云むハ
ハ神世七代章ハ其清陽者薄靡而爲天と云ハ彼一物
より如葦牙より萌騰ルる物の天と成れるより天日
を云ふ次ハ故天先成而地後定と云ハ已ハ天体ハ成

就ひたる由ホて此ハ恒星の限ハてしホ成竟たる
を云ルハ此天日の成れる餘の氣相結りて出來れる
が故ホ彼天柱と云ひ地軸と立たる此極をバ日之少
宮と云ホ日之別宮と云事あるホ祈年太神宮詞ホ天
能壁立極と云ホ天日を宮都と一恒星を藩藩と云
るホ是ホ天の底あるが故ホ天底立神其造或一給へる神をと申せり
ふるホ儲恒天の中より日之少宮の一の國ホて自余
ハ悉くホ火氣の塊ホりホ思ゆるホ我虚空の如
きハ其氣ホ寒温相交れるが故ホ然ホ火氣の塊ホハ出
來ざりホめホ天日の光の行及ぶホ別天と云限ホ

至テハ唯氣のホ有テ充塞れるホ可クむホ彼
萌騰れりホ火氣の散ぶホ凝固れるホ此ハ其火の性
の任ホ彈ホき出むホ爲ル氣勢有ル事本ホよりあるホ
其包めホ水氣の方よりホ此を壓消むホ爲ル網網縵縵の
有ル爲ル水氣ハ愈愈壓一火氣ハ倍伸ル此彼の釣合ホ
依テ天壁是を以テ堅固ホ物ホ所見ハなり但此ハ其件
紀記ホ傳ハる其事實共ホ切ホめ且其星と云ハ火氣ホ
少ホ云事を知テハ其團の闇ホ物ホ水氣と云ハ外
無クけレバ余ホある推量説ホるハ
如此ク注ス外ホ云事ハ無ク備右の地後定ハ有
る此時ホ常ホりテ國常立尊と申ス大神御在一坐ス此
ハ凡テの國土を主トせ給ハるハ傳三三十四五
ト

此書風土記傳保神格
阿蘇神百天有言云云於此
化爲於其入衆衆衆衆
論云云云云有言云云
白三三三三三三三三三三
京北天武天皇十三年御紀
同ノ一注云云云云云云
五ノ一注云云云云云云

小注るが如く凡て國と云大地を本として五星及月は之を係て云
称ある小て其亦名を國狹立尊と申すは國の去立也
申す義あり即此大地より分れて右の國と云立し所
以小由れる御名あるが亦國底立尊と申すは天日不
對ひて國の底と云ハ木星土星を以て限と爲る事小
小て地後定と云ハ是まで小係る可き事申すも更か
り儲此の星神香背男の事を第二一書ハ天有惡
神名曰天津瓊星と有て瓊星ハ嚴星と云事小て其星
中五神五の健く嚴きを以て云称あるが香背男と云
ハ炫進男ハハハと申云言ある小就て考ふる小其五星の中

小謂ゆる火星の神を云ある可し然して其星神の星神あり
此大地小抱る可き事ある小二神の奏し請り倭文神
を遣はして令服給へるハ此地より云時ハ他處の事
の如くあるが然ハ非ず我天神御子ハ一ハ在り
る國土の大君主小渡るせ給へれば然る星神と雖も
背せ給ふまじと天神の御定御在り坐す御事をか
む見奉り知べりゆける又其星中ハ惡神の在り害と
成を以て小諾ひ歸順ひ奉る時ハ人知ぬ事あるが
此大地の爲小輔翼と成て有る事をし知べり者あり
口訣小香背男者惡星之名と有ればハ星の惡ある

ふ非ず九月の夜を持ちて國土を照す事ハ誰しも知
れ事ありども五星の如きハ何の爲何の用と云事
の傳無れば知小由無しと雖も天日と恒星との如き
謂れをどの有て大地の藩籬の如くして五星を立さ
せ給ふ事亦皇國の藩籬と爲て四夷八蠻の万国を置
せ給へると同日の談ある小ころ又口訣ハ天津彗星
注れども彗星ハ香々背男と云事ハ如何又纂疏ハ
人之在世間爲善乃得福爲惡乃得災皆爲生卦主撰今
以星神攝衆生其理深矣と注させ給へれども何の深
き事ハ有む此を星卦の主撰を以て注させ給へる
ふと殊小年ハ難き者あり又通證ハ香々背男耀小威
之邪神其惡通天妖星見故爲星神と云れしハ此翁ハ
似合しと云ふ邪説あり正しく天不在星中の
神ありハこころ星神と云ふありけれ何ぞ此喻を以

て書し傳へさせ給ふ事ハ在し生む ○香々背男の香々ハ炫あり記傳
五五四下十 小火之炫昆古神炫ハ迎賀と訓べし靈異記ハ
炫を加へ也計利と訓り字書ハ耀光也とハ火光也
とハ明也と注せり又火之迎具土神迎具ハ赫カヤリと云意
其ハ迎賀と云迎藝と云迎具と云迎且と云活きて同言
なり迎藝と云る例ハ若櫻宮段の大御歌小火を迎藝
漏肥と詠給へり迎且ハ影と云る是あり二説と有り
加し猶上一十下一十注させ給へり螢火光神の光字を迎賀
夜久と訓り常陸風土記ハ火光明國と有る明字を
訓るハ字書ハ炫明也と有る合て神武天皇戊午年御

紀小其鷄先暉燿狀如流電神功皇后元年御紀小金銀
多之眼炎國此事を古事記小の金銀爲本日之炎擢種
の珍宝多在其國雄略天皇七年御紀小其雷也也目精
赫赫欽明天皇十四年御紀小光彩晃曜如日色也所
見たり然る小出雲風土記島根郡保郷小支佐加比
二賣命閻岩屋哉詔金弓以射時光加こ明也故云加こ
と見えたる是迦賀と云て迦賀夜久と云義多の的證
あり者あり猶傳九二十小火之炫昆古神の御名を説
る所小考合す可し昔男ハ姓氏錄宮部造今永連の下
天背男命と申す神名の見えたる其ハ雄武の神也聞

えたるが孝靈天皇二年御紀の彦五十狹芥命亦名吉備津彦
命を古事記の其段小此古伊佐勢理昆古命と有然
る事あり小其前朝の御子等の中小大吉備諸進命と
出たりハ其亦名の混れある由記傳の説の如し其伊
佐勢理ハ勇進の義あり諸進ハ其言相近きを以て
思ふ小此の香ハ昔男又天背男命などの勢衰ハ勢理
衰ハ略して進男の義とぞ所思えたる其記傳十一卷
理ハ火須勢理命の須勢理と同一く進む意あり彼
神名を書紀の一書ハ火進命と有を以て知べきあり
と云ルハ實ハ○倭文神此云斯圖梨成未ハ傳十九三
九下小注るが如く天武天皇十三年御紀倭文連の下

公按加記小方多し有
其記傳ハ古事記
云ハ仍ハ在る大に有
可加ハ年ハ然則リ

小倭文此云之頭於利見之見之也云以ても荒衣の文
布を織給へる由小因れ事今更ふ云すても非事
るり然る小此平國の御政小布帛を織る神更ふ由無
し故思ふ小天智天皇二年御紀小前將軍中將軍後將
軍の目有り其前將軍ハ即大將軍の事小此ハ經
津主神是不當中將軍の中字を由此能て訓たルハ
即副將軍ハ此ハ武甕槌神是不當可由上
四百三 小注ハ加シ其後將軍ハ云フ謂ハ後シ殿
十五下 小此ハ建業槌神ハ正シ當ル給ヘルハ
然レハ斯圖梨ハ後取ル其後將軍ハ後シ給フ

謂多々可く所思えたる然るハ云仁天皇三十九年
御紀ハ是時楯部倭文部神弓削部神矢作部大元磯部
泊檀部玉作部神利部日置部大刀佩部并十箇品部賜
五七敷寶皇子ハ有ル何レ兵器ハ預ル仕奉ル部ハ
中ハ倭文部ハ云フ一群ハ有ル此ハ後取部ハ其事ハ
使ハ奉ル部ハ可ク事ハ安閑天皇元年御紀
小行幸於三島大伴大連金村從焉天皇使大伴金村問
良田於縣主飯粒中於是縣主飯粒喜懼交懷迺以其子
鳥樹獻大連爲シ僮ハ爲シ有ル僮ハ志度問和良波
と訓ス後取部ハ童ハ云フ事ハ此ハ大連ハ資人ト

高麗國入正六位
上後部之高平金之
有又後部高麗國
入後部之任事
後部之任事高麗國
之任事高麗國
高麗國之任事
高麗國之任事
高麗國之任事
高麗國之任事
高麗國之任事

成を云あり又皇極天皇三年御紀蘇我父子の僭立け
 一時の事小更起家於畝火山東穿池為城起庫儲矢箭
 恒將五十兵士繞身出入名健人曰東方僨從者之有
 僨從者を志度理信と訓る小後取部より其身小従へ
 る兵士の限を云とあり又儀式四時祭式等の御贖儀
 小宮主披荒世授中臣と取授中臣や即執量御體摠
 五度訖宮主取祝訖授後取ト部と見えたる宮主ト同
 トト部より出々事より一ありども其ハ長上ありけ
 北ハ其下官使トト部を後取トハ云るなり如此く其
 長上あり部下小使ハるる者ハ後取ト云を思へ此

香取神
香取神
香取神
香取神
香取神
香取神
香取神
香取神
香取神
香取神

ある建業捷命ハハハ彼古語拾遺石戸段小令天羽捷
 雄神 倭文通 遠祖也 織文布ト有ハカク本より シヅ 文布を織るセ
 給ふ神ハ坐せども此御軍政ハ後取神より右小
 謂ゆる後將軍の狀ト降る世給へるなり天武天
 皇御紀小謂ゆる倭文此云之頭於利の切れる斯圖梨
 小後取を斯圖梨ト云と言ハ同ト小其神將ト示別あり
 なるハ故小古より一向小倭文の方のを取て後取
 の義をハ此小失へる者トゾ所見ハありける 又後殿ト
 事ト見由神名式小陸奥國新波郡志賀理和氣神社ト
 申す有由有ハ若くハ此神多ハ坐ト坐ト坐ト坐ト
 即後驅の義多ト多ト多ト多ト多ト多ト多ト多ト多ト多ト多ト
 云殿之言填也謂鎮軍後以餽扞敵也見え活法小軍

前白啓軍後 日殿と有り ○建業捷命ハ右小引る古語拾遺ハ天
羽捷雄神と見え神祇本紀ハ復令倭文遠祖天羽捷
雄神織文布と有り神名式ハ天羽雷命と見えたる
ハ姓氏録神宮部造ハ下小葛城猪石因天降神天破命
と有ハも雷字を脱セハ天破雷命ありけむも知
べりるざるあり名義建ハ武甕槌神建布都神ハ
御名小冠と申セハ一事ハ例ハ如く健く雄偉
しく渡りせ給ふ由あり羽捷ハ石捷ハ伊ハ言ハ略
ウハハ上四百四十四 警筒男警筒ハ二神ハ所ハ注
ハ如く彼御名ハ警筒ハ一ハ神武天皇戊午年御紀

の歌ハ所見たる 勾勢鷲都ハ伊異志都ハ伊是あり右
ハ後取神ハ義を以て説き又倭文神ハ方ハハ
羽ハ傳十九ハ十六下三 注ハ如く古語拾遺長白羽
神ハ下ハ衣服此謂之白羽と有ハ布帛衣服ハ且
惣名ありけルハ其文布ハ織成させ給ふハ因ル捷
ハ津持ハ其機屋ハ持知セハ義と聞ハあり如此
ハ兵事ハ衣服ハ二ハ事ハ兼給ハ其御職ハ於ハ後
取ハ倭文ハ二ハ義ハ兼させ給ハ事外ハ例無ハ
雖ハ此御神ハ事實ハ於ハ更ハ間然ナス可ハ者
ありけルハ唯此ハ神名然ルハ正ハ武官ありハ

思ふ小事無き時ハ内ニ在テ倭文を織テ貢奉り事有
小及ひハ後取部ト爲テ仕奉ルル事有ル事有ル万葉
二十卷常陸國防人ト倭
文部可良麻呂ト云有リ倭世此錄大和國神
祢出自神魂命之後大味宿祢也又按津國神
凝魂命男伊佐布魂命之後也有次ハ竹原同上又
額田部宿祢同神男五十狹經魂命之後也又額田部額
田部宿祢同祖明日名田命之後也見之又河内國神
委文宿祢角凝魂命之後也有額田部宿祢ト同流
委文宿祢ト推求ル道有リ其ハ傳ハ廿二ハ
六ハ注ハカハ如ク其角凝魂命ト聞ユカハ可美彦葦牙
彦舅尊ト渡ル世給ヒ其次ハ天壁立命坐テ其次ハ

伊佐布魂命ト御在シ坐テ此ハ伊弉諾尊ノ御事ナリ
其次ハ天雷神ト申ス御在シ坐テ此ハ其大神ノ御子
軒遇突智神ト殺給ヘスハ依テ其御骸ト化坐テ雷
神ノ御事ナリ其御子ハ牛ノ男神ト坐テ亦名ハ天背
男命ト明日名田命ト申ヒスハ其子天忍日命坐
此ハ大伴宿祢ト祖ナリ次ハ天日鷲ト此天羽槌雄神
也正ハ其子力雄神ノ御子ト見ユ由ル由ハ傳ハ十九ハ
二十ハ注ハカハ如ク神名式ト謂ユ常陸國久慈郡靜
神社名神を諸書ハ牛ノ力雄神ト祀ル由ル見ユたテ高
原神社明在社院所祭建業槌命ト有リ其御父子ノ由

ふむ著うりけを姓氏録左京神別小宮部造天壁立

命子天背男命之後也山城國神有小又別天神小神宮部造

葛城指石岡天降神天破命之後也略下有天破雷神

あり可き由右小注合て天背男命即乎力雄神

あり時此を其御父子と云傍證ハ備不可

者あり然し其下小崇神天皇御世の事神災異即止天皇詔曰消天災百姓得福自今以後可

為官能賣神仍賜姓官能賣公云有ハ吉足日命の

事あり其大物主神祭を善為以て御許侍り

ハる由あり合て常陸國八社鎮座記は鹿島

神宮條攝社高房神社在本宮前是謂倭文祠又謂之

奏者神又名天羽槌雄命是為倭文遠祖見之た此

造有似たあり必所以有也神名式小大和國葛

下郡葛木倭文生天羽雷命神社大月次有此倭

文生有り地名ありあり垂仁天皇三十九年御

紀謂り倭文部を置せ給へり地名あり三四三代

實錄負觀元年正月十七日甲申奉授大和國從五位

下葛木倭文天羽雷命神從五位上所見あり大和志

小在加守村今称加守明神見之和名以葛下郡神

戸郷有此あり可し又伊勢國鈴鹿郡倭文神社今龜

山西野尻村在之云駿河國富士郡倭文神社主

計寮式小駿河國倭文三十一端有り今星山云所

小星山觀音云有其地内坐を祭神音背男小

三代實錄小貞觀元年八月十七日庚子上野國五位上倭文神列于官社同日祭御授上野國五位上倭文神從五位下有是令

祭神春日大明神浦島五社大明神坐蒲川在日置大城縣云云其春日大明神云云武甕槌神云云地命神御名同下浦島五社其相殺合也祀れり

村

り云傳る由あるハ主客を誤れり此天羽雷神
 小御在坐べし上七百八十八丁注るが如く風土記小當
 郡中具羅神社所祭經津主神也有由有少伊豆
 國田方郡倭文神社當國下經津主神武甕槌神の御在
 一坐才御事を其所云り甲斐國巨麻郡倭文神社
 近江國滋賀郡倭神社見之和名抄上野國那波郡倭
 文御之御有を神名式小同郡倭文神社見えたり本
 國神名帳小從一位倭文大明神見之群馬西郡從五
 位上倭文若御子明神申す有り丹後國加佐郡倭
 文神社與謝郡倭文神社但馬國朝來郡倭文神社續風

土記小在山口郷丸山村祢鮭宮之云り又和名抄小因
 幡國高草郡倭文之御味野乃郷有小式小同郡倭
 文神社見えたり右引る姓氏錄大和國神小倭文
 宿祢出自神魂命之後大味宿祢也有合之狀あり
 然小因幡志云倭文郷倭文村の山上小在り七
 體大明神と祢する是あり社傳云祭神大己貴命云々
 有ハ志豆七を混ハ其神小七名御在一坐
 才事の名高き小依テ終ハ大己貴神を祀ル者と傳誤
 りて倭文神の御名ハ幽北ハ世給ハ者ハ小コり
 又伯耆國川村郡倭文神社久米郡倭文神社ハ見え

此建業榎神を祀れる社都十二社あり又和名抄
小淡路國三原郷郡倭文^{之上}に有れり其來由詳ふ
く若くハ國造本紀小淡道國造難波高津朝御世神
皇產靈尊九世孫天口宿禰定賜國造と見えたり右
の倭文宿禰と出自同一よりけり其同族の謂ふ因
れりあると云ふ有べし
但右の中ハ因幡伯耆二
國あり倭文神社の事ハ
ハ異説有て上百四十五下照姫命の所ハ注るが如く
其川村郡あるを一宮記ハ下照姫命を書し大同類聚
方ハ然る趣あるハ下照を切めて志度理と云ふハ
字ハ同トシ任ハ倭文と作る者と思へりハ此ハ舉
げき限ハ非ルハ然りて右ハ舉げたるハ何れハ
建業榎神あるを思ふハ其唱ハ同トシ任ハ後ハ合
セ祀ルハありむ 倭又釋述義ハ倭文神ハ御事を大問
知てりす

云此神在何處哉先師申云坐常陸國依之諸祭幣物内
倭文者常陸國之所濟也重問云倭文其形体如何先師
申云古語拾遺文布云ハ號綾布之類歟建久諸祭興行
之時大藏省年預申狀有青筋文之布云ハ所見たり
此事ハ傳十九^{三百二十九}ハ注るが如く常陸風土記ハ久
慈郡西〇里^里靜織^里上古之時未知織綾之機未^在知
人于時此村初織因名之と有る是ハ和名抄ハ高郡
倭文郷と見え^{ハハ}主計寮式ハ常陸國倭文川一端自餘輸
曝布又新猿樂記ハ常陸綾布あり有て文布を此地よ
シ織出せり趣あるハ神名式ハ高郡靜神社^{名神}見え

たう然る小此小建業捷命を主神祀す神
社考小載たる神書抄小多力雄命者今常州志津明神
也と云ひ西山遺事小静社千力雄命那珂郡静村常陸
志小今属那珂郡傳云千力雄神と見え十八社鎮座記
小今属那珂郡在静村旧名静織里在久慈郡以西上
古之時初織綾於此里因名焉今呼爲静者逸織字耳
祠山上祀千力雄命也略中高房神社在社院所祭建業捷
命と見えた此ハ静神社ハ本ハ静織神社ハありつゝ小
を然申小習へるあり可小倍此小建業捷命を主
神ハ御在小坐へるありゆゑを却りて從祀と成る也御

在小坐ハ不審ハ事あり此ハ御父神ハ渡りせ
給へるハ小其從祀と坐むハ謂れ有ハ似たり三代
實錄小仁和元年五月十二日丙午常陸國從五位下静
神授從五位上と所見たり然此建業捷命を鹿島
香取春日等ハ佐軍神ハ申して謂ハ後取神ハ
由右ハ注ハか如ハ因云右ハ主計寮式ハ自餘輸曝
布ハ有ハ剌即白布ハ謂ハ白羽是なり其ハ傳十
九卷三百十九ハ注ハか如ハ當郡天之志良波神社
御在ハ坐ハ其神社ハ係ハ事ハ別あり○此建業捷命ハ訖成ハ後ハ長
幡部ハ系圖ハ一本を得たり其傳ハ云ハ神魂命其子角
疑命其子伊佐布魂命と有て此御子ハ四柱坐ハ其長を
明日名門命ハ申して此ハ額田部宿祢部連伊豆

國造生玉部等の祖あり弟天底立命亦天壁立命此ハ
根木袖主伊勢朝臣等の祖あり但天底立命を明日名
門命の子に云事物の混ル（此の事、下引の姓氏録伊勢朝臣の條に記す）あり其子の天波與命をハ
祖小係り然る可く其其次男長白羽命其子天物知
命亦名八坂彦命是神祿績連の祖あり三男天羽槌命
是委文宿祢長幡部等の祖あり四男天乳魂命其子天
湯河折命此ハ美努連鳥取連等の祖あり今訂正して
初祖を神魂命と立て二世角凝命命三世天底立命四世
伊佐布魂命五世天雷神六世天手刀雄神亦名明日名
門命を可く事右ハ下注は加し然る時ハ

明日名門命を此の長男小置ハ誤して長白羽命天羽
槌命天乳魂命等ハ其神の子ある可く有る今
悉く此を辨ふ可し其明日名門命其子天搦持命其子
天布雲命其子天村雲命を額田部宿祢祖と有り姓氏
録右京神別上天神額田部宿祢明日名門命三世孫天村雲
命之後也と有り合り又額田部懸玉額田部宿祢同祖
明日名門命十一世孫御支宿祢之後也又山城國神額
田部宿祢明日名門命六世孫天由久富命之後也又津
國神別額田部宿祢角凝魂命男五十狹經魂命之後也
又額田部額田部宿祢同祖明日名田命之後也と有り

今武村雲命の弟天
神神命を服部連甲
豆國造三郎一見
五同録天和國神
連天御中主命十世孫
天御神命之後也
是少一按津國の服部
國造天記下神功皇
神代服部連祖天記
命の孫若連命等
國造三郎三郎
宗子以遠國佐野
郡生玉部足國人見

一部の祖あり次小元底立命之有を削りて明日名門
命の次子天波與命其子天日別命弟建日別命其天日
別命四子有り玉柱屋姬命彦國見加岐建與末命姬前
羽命彦前羽命あり其建與末命二子有り長彦由都
久祢命季を七彦押坐命之云ふ其彦由都久祢命子彦
楯津命其子彦久良爲命其子大若子命弟七若子命也
有て大若子命を根本神主祖と書して若子命を伊勢
朝臣祖と云ふ姓氏録左京神別小伊勢朝臣元底立命
六世孫天日別命之後也之見元はる小七相合へ少度
會系圖小神皇產靈尊其子櫛真乳速命其子天曾己多
智命其子天圖嗣梓命天鈴梓命天牟羅雲命其子天波

△其子建佐布命

與命より次は右小引る小同ト其乙若子命子亦
佐布命其子彦和志理命其子阿波良波命弟御倉命云
ふハ別あり其真系を得て見云ふ天火明命初祖少
其子天香語山命其子天村雲命其子二人有り兄を天
忍人命弟天忍男命と云ふ其天忍男命ハ尾張連等の
祖あり其天忍人命其子天戸目命其子建斗末命其子
建田背命國波國造と成る其子彦和志理命其子阿波
良直其子佐信支直其子大佐古直の譜小雄略天皇
十一年供奉豐受大神遷往伊勢國度會郡山田原之所
見たり右の額田部宿禰の祖小天村雲命と云ふ同名
の人有が爲小混りして建佐布命を尔佐布命と替へ
其系記小附會せたる者ふして後人の所爲 儲此天羽
捷命の兄小高々長白羽命其子天物知命亦若八坂彦
命を神麻績連祖と云ふ小就て正し辨ふ可き事ふ
む有ける其ハ此長白羽神の事を類聚神祇本源小載

たろ古語神金鷄命孫長白羽命也已有其神の事
本朝事始和琴止古登号也麻上古天津神樂奏令加奈止美
命也制也加奈止美者皇產靈與云神皇產靈之子也
也云事見え其金鷄命を神皇產靈尊の子と爲る事
ふれ其何代の後を係て云れは強て抱る事
小可なり其爲て右小舉はる世次の中何れ小當
可なり其否やを今知べし其如し然る其
長白羽神の神麻績連の祖たる事祖系を索る其
父天日鷲命祖天石門別命坐北金鷄命を天
日鷲命の別号と見え其外無故小古人も己小其

定有故其小從之時金鷄命子長白羽神の有
くして右小謂也明日名門命の孫ありければ此系
記小長白羽命天羽捷命と兄弟小列ねたる違ふ可
し其事十九傳十六百下小注せれば今云
限二非三あり古語拾遺長白羽神伊勢國麻績祖
と見え其子天物知命右京神別姓氏錄上天神小神麻績連
天物知命之後也と有り又天神本紀供奉三十二神の
中小天乳速日命廣端神麻績連等祖天八坂彦命伊勢
神麻績連等祖と有り共小天物知命の子小一一京
小留まり一神宮小奉るれば一有り一小

此又其天羽捷命の弟小當る天乳魂命ハ乳ハ借字小
 天子魂命ニ申す義ある少シ此ナリ外小古書ハ
 見えざる名あり其子天湯河折命ハ美努連鳥取連の
 祖ニ云事ハ姓氏録河内國神 別天神小委文宿祢ト並ビテ美
 努連前凝魂命三世孫天湯河田奈命之後也ト見之又
 右京神別鳥取部連前凝魂命三世孫天湯河折命之後
 上天神也略又山城國神 鳥取連 別天神天角己利命三世孫天湯河板舉命之
 後也又河内國神 別天神鳥取前凝魂命三世孫天湯河折命之
 後也又和泉國神 別天神鳥取前凝魂命三世孫天湯河折命之後
 也ト有小克合る者あり但此小一不審一ト事有り古
 仁天皇二十三年御紀ハ鳥取

造祖天湯河板舉ト云人名出たり右小引る鳥取部連
 の下ト全仁天皇ト子譽津別命年向三十一不言語云
 天皇悦之遣天湯河板舉折云ト有テ祖神ト名ト
 子孫ト名ト相ト異ト等ト如何有テ故ト有
 其祖先神ト名ト傳ハレるト情天羽捷命ハ経脈ト
 書せる狀ハ此神を第一ト一ト二世トハ綺日女命ト
 有テ其譜小天降供奉後自筑紫至三野國引津根之丘
 ト有ラ此事次ト注テ可一三世豊羽持命四世天羽刀
 祢命五世比古羽刀見命六世久尔豆知命七世宇支利
 利八世多々良支利命九世大味宿祢ト有テ此流ハ委
 文宿祢祖ト見えたり右八百 七下 小引る姓氏録 大和國神 別天神
 小委文宿祢出自神魂命之後大味宿祢也ト有テ小合ハ

〇八百十六

者あり儲其四世天羽刃祢命ニ子有り兄比古羽
刀見命ハ右ノ如ク委文宿禰ノ流あり弟比古根見命
ハ長幡部祖あり其子古迹見命其子富持命譜ハ美
乃國不破郡綾野邑と有テ其子古津と云有テ其綾
野邑ノ地詳ありずト雖ハ和名抄郷名ハ安八郡服部
と云有リ又長衣之音此長幡部切めたる地名可し其不破之字ハ音小相隣ル郡ナルハ由有テ儲常陸風土記ハ
久慈郡東七里太田郷長幡部之社古老曰珠賣美萬
命自天降時為織御服從而降之神名綺日女命本自筑
紫國日向二神之峰至三野國引常之丘ハ有テ此を
以見ルハ建業捷命ハ此ハ星神也背男を服るべし

復命一給ひし任ハ天上ハ留りテ其御女綺日女命が
天降る世給りけり但夫神ハ御在し坐すし御子
の有べきありずと思ふハ一應ハ論あるが神ハ御上
ハ尋常ノ理を以テ推べりけりハ何ハ疑ハ
む右ノ傳ハ就テ美濃國神名帳を閲ハ不破郡從五位
上天二上明神從五位上引常明神と有を以テ其引常
之丘ノ所在を知リ時ハ右ハ謂ハ綾野邑ト亦其國
ハ就テ正テ道必出來べき事ありけり又厚見郡從五
位下子力雄明神同若幡明神同忌部明神と有ハ一ハ
建業捷命ノ御父ハ坐し又ハ其服部ノ事ハ因ルハ

思ひし神等ニ坐ルハ必ソ以テ有ルベク多ク主計寮式小
美濃國調白絹十疋綠帛二十疋廣絶十疋帛三百疋長
絹百疋ニ有ル其富持命の子孫ニ長幡部ノ供奉ル
ニありテ儲上四百二十注スバ如ク古事記伊弉河宮段
日子坐玉ノ御子等十一玉坐ル中ニ神大根玉者三野
國本巢國造長幡部連等ノ祖ニ有ル見ルハ此玉其國
造ニ任サレ給ヒ時ヨリ長幡部ノ群ノ長ニ爲テ仕
奉ルレシありケリ此を以テ其富持命ノ流ハ美濃國
を見ル小足レウシ云ベレ一常陸國あり其弟多ク互命
よりノ事ニありテ此ヨリ別ニ成ル事を先心得置ク
可ク者ナ故其富持命ノ多ク氏命ニ云有リ其譜ニ移常
ウク

陸國久慈郡太田郷ニ有リ此事次ニ云ベレ一其子麻奈
其子堅陀其子田狹其子佐自古其子竹道其子努志古
其子小倉其子荒金ニ有テ其譜ニ小治田朝貢長幡部
所見ハ此ハ推古天皇ノ御代ノ人あり其荒金
の子二人有リ其兄小意古ニ云有テ譜ニ子孫太田
郷ニ見エテ此ハ常陸國ノ越幡氏ノ祖あり其弟小古
佐自ニ云有テ譜ニ國本朝廷任武藏國賀美郷ニ所見
ハ舒明ノ天皇ノ御代ヨリ支レテ武藏國ニ長幡部
ノ一流出來レ有リ神名式ニ賀美郡長幡部神社有
ハ其祖神を祀ル有リ可ク事ニ更有リ今下郷長

日本書紀傳三十一
〇八百十八

主計寮常陸國輪
調小常陸國長幡部
織方有之此機
織小織 幸多可也
本一

濱村小御在坐不其常陸國あるハ右小引ノ風土
記ノ續キ小後及美麻貴天皇之世長幡部遠祖多氏命
避自三野遷于久慈造立機殿初織之其所織服自成衣
裳更無裁縫謂之内幡或曰當絶織絶時輒為人見故開
屋扉閣内而織因名烏織強兵利劍不得裁断今每年別
為神調而献納之と所見たる此多氏命不美濃より分
ルテ常陸國の長幡部の祖とい成るれ一趣ありけり
傳十九三百三十一小注るが如く神名式小常陸國久慈郡
長幡部神社有之是より類史五十四常陸小常陸國人長幡
部福長良授少初位上云々と有之此氏人なり然り

其輒く人の見ら為機屋の扉を開て織る由ハ綺日
カ命より以降世々家小傳たる秘説有テ裁縫の事を
用ひずして自然小衣裳成る織方有故小漫り小
人の見ら事を許さ教小伝より此を烏織といふ然る小追次世中の
状も漸小移りて唐戎の衣服の制も我ハ古制を合
せて中古以來の官服の状も成れりより其法漸く
廢れたり惜しむ可き事あり思ふ小公家小
て今も神事小服させ給ふハ上代の官服の遺制あり
と云り若右の如くありむふ今も其巧小依り然
る織方の出来下と限れる事ハ非可一強兵利劍

六丁の各持別て筆
事小成なり

不得裁断ハ絶ハ薄き者あり何ぞ裁断ざる事を得
て々々此ハ機殿ハ傳十九八十ハ注るが如く神代
より齋服殿ニ去テ深ク神事を爲して齋清ハ少仕奉
る事有んハ實ハ強兵利劔を以て避る計の威靈有る事を
云ふり今ハ毎年別爲神調獻納之有る今ハ此記を
進れ和銅の頃を云ふり別爲神調云ハ其神社よ
う調奉れを云ふり十八社鎮座記不在太田郷東
幡村祭神多ク命是長幡部始祖ト所見たり右の如く
ハ建業棧
命ハ一ト委文宿禰のミ遠祖ふてハ御在ハ坐ズ長
幡部ハ祖神ト御在ハ坐けるあり然る時ハ其五世
天羽刀祢命までハ傳文ト長幡部ハ相兼て仕奉れ
を其子二人有てハ一ハ委文宿禰一ハ長幡部ト別ル

ハ由傳本在し
下より

在ハ坐ハ其御父神日故ハ御在ハ坐テハ
代實録ハ仁和元年五月廿二日丙午帝陸國從五位下
靜神社授從五位上ト所見なり鹿島神宮ハ此神
を奏者神ト申ハ音取
春日ハ佐軍神ト申せる由ハ右ハ右ハ右ハ右ハ右ハ右ハ右ハ右
計寮式ハ自餘輪曝布ト有ハ白布ハ事ハ調ハ白
羽あり其ハ當郡天ノ志良波神社
御在ハ坐ハ其社ハ輪ハ物
倍那比奉理伎ト訓ベテ説右七百九
十八ハ如ハ借此不眠
ざりハ星神音ハ背男を誅ハせ給ふ婦政ハ此ハ
國土ハ荒振神を言向させ給ヒ畢テ後の事ト傳ハリ
ハハハ此ハ已ハ上四百八
十七ハ論つるハ如ハ第
二ハ書ノ始ハ天神遣經津主神武甕槌神使乎定章原

中國時二神曰天有惡神名曰天津甕星亦名天香背
男請先誅此神然後下撥葦原中國有^か如^く其始不
非ずして心行ぬ事おむ有ける然るハ右の二神ハ
大將軍副將軍不^い建業捷命の後取神と爲て天降^る
せ給へるが二神の申請せ給ふ任不^し此神を遣して其
星神の事を馭しめ給ひ二神ハ直不^し國土を在て天降
るせ給ひける故^に此^{より}二神於是降^り到^り出雲國五十
田狹之小江と有て後取神の事を載^るれず第一第二
一書共^に此^事不^於て異説無^きハ二神の大已貴神
と御應答の時ハ其神の星神を誅^らせ給へる程

不^し其星神を天神の御趣^に不^服しめて其神の天降
り著せ給へる右の國避^りの御政畢て後^に二神の彼
不^順る鬼神等を誅^らせ給ふ真^中不^在し故^に其香
背男を服^へ給へる事の此の事實と一^に混^れ傳^はれ
る者と所見^がけられ始^に不^在を善^と爲^て後^に置^く
る傳の混れあるむ^{こと}云^{あり}此^故不^何出雲風土
此建業捷命不^由有^ると思^し事^ハ凡^て無^くして多^く
ハ東國^ハ右^の如^く事跡多在^るを以^ても其前後^ハ考
有^る者^{あり}○二神登^天也^ハ常陸風土記志太^郡條^ハ古
老曰天地權輿草木言語之時自天降來神名^稱葦原大
神巡行葦原中津之國和^平山河荒^梗之類大神化道已

畢心存歸天即時隨身器仗俗曰伊川乃川惠甲戈楯劔及所執
玉珪悉皆脫履留置茲地即乘白雲還昇蒼天所見此
是あり此小の經津主神一柱の狀あり互小
片方のこを舉る古書の例ありけしハ二神の御事と
見可化通ハ許登牟氣訓て右の和年山河内荒
梗之類と有承たるあり已畢の悉託の義あり心存
歸天の復命し給はむと所思せる由あり隨身の御身
小著させ給へる限の物を云ふ器仗の下俗曰伊川乃と
有て二字を脱せざるを訂正本小川惠の字を補ひた
る其宜右十百九小引る同記香島大神の現れさせ

上ノ帝小杖歩と
別々故小杖
と云ふ

給へる所小白梓御杖取坐と有此小同ト伊
川乃川惠ハ嚴杖云事ハ和名抄刑罰具小杖唐
令云諸杖和名都惠と有是ハ世小謂ふ棒事ハ
可一甲戈楯劔和名抄征戰具小甲唐韻云鏡升蓋
路名與甲也釋名云甲者似物之有鱗甲也又戰揚雄方言
云戟九劇及和或謂之予或謂之戈古未又楯兼名苑云
楯倉甲及上色一名楯音又劔四色字苑云似刀而兩
又曰劔舉と有是あり玉珪ハ玉と珪二あり
子四名義抄小珪古圭字鎮安也有を思ふ此
珪小稱量具征戰の時と小必執持して敵

地、遠近土地、高低を、見積りて給ふ義、聞ゆ
水、波加理あり、訓べし、悉皆脱履、荒振神を
斬殺せ給へ、器あり、故に此地、留置せ給ひて
其鎮め、爲させ給ふ、可、留置茲地、土中、埋
させ給へ、ふ、めり、天孫本紀、不饒速日命、亮坐と云
こ、信子、れね、天羽、二弓、矢羽、之、矢、復、神、衣、帶、手、貫、三
物、葬、斂、於、登、美、白、庭、邑、以、此、爲、墓、者、也、有、御、身、小、隨
させ給ふ物、を、埋め、置て、天上、小、升、させ給ひ、事、と、い
此、を、以、て、し、知、る、めり、**素白雲還昇蒼天**、其、留、置、せ
給ひ、高來里、和名抄、都名、小、出、た、凡、今、所

在詳あり、す、云、り、思ふ、神名式、信太郡、楯縫神社
右、七百八、小、引、出、雲、風、土、記、の、例、を、思ふ、小、此、小、經、津
主、神、小、御、在、坐、べ、十、八、社、鎮、座、記、在、木、原、村、祭、神
彦、狹、知、命、是、爲、作、有、者、見、于、日、本、紀、相、傳、信、田、郡、第、一、宮、也、社、側、有、大
杉、樹、周、圍、四、丈、五、尺、余、爲、神、木、見、者、皆、以、爲、奇、と、云、り、若
く、高來、の、地、名、木、原、と、成、れ、り、其、神、木、下、其
を、埋、置、せ、給へ、地、あり、可、素白雲還昇蒼天、姓氏
錄、吉野、連、條、小、自、天、降、來、白、雲、別、神、と、云、神、名、と、有、を、見
る、小、斯、神、等、の、天、上、より、昇、降、させ給ふ、白雲、小
素、と、せ、給へ、り、是、即、八洲、起、元、章、の、天、浮、橋、を、其、第

二一書ハ天霧と有レ一物とゾ所見たりける還昇
蒼天の蒼ハ虚字にて此ハ登天也第一一書ハ乃昇
天復命也右ハ注ル玉珪ハ有レ事ハ一あり者あり
著ガ心ヲ訂正本ハ二字を合せて多麻と訓レ
礼大司徒ハ以土圭之法測土深正日景以求地中也
鄭注ハ圭長尺有五寸以夏至日立八尺之長其景
適正與土圭等謂之地中也有レ此ハ神氣の盛ある上
古ハ然ル器多クを設ル可ク非レ玉を称美ス
義を以テ珪字ハ置たゆや
○果以復命ハ第一一書ハ二神乃昇天
復命而告之曰葦原中國皆已卒竟と有レ是あり古事
記ハ故建御雷神返參上復奏言和乎葦原中國之狀
と有レ此ハ經津主神の御事ハ凡て漏レ傳レるガ

此ハ意味ハ二神ハ見レ事右の一書ハ合セ訓讀
テ境不可ク者あり即此ハ上ハ是後高皇產靈尊更會
諸神選當遣於葦原中國者僉曰經津主神是將佐也
時武甕槌神進曰豈唯經津主神獨為丈夫而吾非丈
夫者哉其辞氣慷慨故以即配經津主神令平葦原中國
と有レ事の都レの結と成ル所ありけレ其意を
得テ思ふ其始出雲國五十田狹之小汀ハ天降レ者
一ハ大己貴神ハ神問レ給ヘ事其然一ハ大己貴神
より其子の辞を以テ對奉ルと申セム事其其
ヲ縮背脛命を遣一ハ事代神の對ヘを令聞給ヘ

事^三其^三此小事代主神速小國を避奉る由を申して天逆
子を拍て隠坐し事^四其^四此小大己貴神小猶申べき子有
やと問給へる言と説ざる小建御名方神の子引石を
撃げり出来うし事^五其^五次小其神を追迫て信濃國諏訪
小令順給へりし事^六其^六若く大己貴神小問給へる小
我子二神の白せ不隨小僕小不違此葦原中國の命の
隨小悉小献くせし申給へる事^七其^七大己貴神の僕が
任處をハ天神御子の御舎の如く治賜ふ可き由の願
言小依て中間二神の天小復命し給へる事^八其^八此小就
て天神の治させ給へる大命を持て天降り坐し事^九其^九

若く則大己貴神其大命の畏まりを申して現事顯事
を天神御子小所治奉り己命ハ神事幽事を治させ給
ふ可き由を對奉りし事^十其^十天日隅宮を造奉る種
の事^一其^一其間小越八國を平小治在し坐し事^二其^二然
し大宮成て鎮坐む爲る小廣牙を奉り岐神を薦
めり此し事^三其^三大己貴神の和魂大物主神及御子神等を皇孫
尊の近守神に鎮め置し事^四其^四其荒魂大國魂神の
御靈瑞八坂瓊を置し給へる事^五其^五大己貴神の八百
丹杵築宮小隱させ給ひて幽の顯の世を別小爲る事
其^六天穗日命の子天夷鳥命其祭祀を主少諸神此事仕奉はせり

事^{其十} 掃八玉神天御饗を奉る事^{其十} 其後岐神
 を郷道守^七 爲て國土を巡り荒振神を悉く言向和平坐
 小事^{其十} 其先小星神香々背男を服へて建業捷命^九
 共^{小加} 國平給ひ一事^{其二} 亦右等事共を合せし
 申さし給へるを此小切めて果以復命の書さるた
 る者あり 然るを口許小果以復命者以大己貴神之許
 也と有ハ淺くし説より此上文より彼地
 多有螢火光神及蠅色惡神復有草木能言語と見え其
 を第一一書ふハ殘賊強暴橫惡之神と有り皇祖天神
 の二神を遣し給へるハ大己貴神ハ國土の現事顯
 事をハ避くせ給ふ可事なりハ計し給へり
 けれ主じ其殘賊強暴橫惡之神を撥平させ給ひて
 國土を平らぐハ爲り給へるハ神事なるを昔
 の其事をハ傍みし大己貴神をハ當り
 敵の如く申成一奉る事甚可畏業あり 故此二神の
 賊

天小登りせ給へる即大物主神大國魂神及事代主神
 等此小八百万神等を帥て皇祖天神の御許小其國邊
 の畏まりを申させ給ふ爲り天上小參朝^{ハナ} 爲させ給
 へる由已小上 五百 四丁 小注 如し第一一書小是時歸
 順之首渠者大物主神及事代主神乃合八十万神於天
 高市帥以昇天陳其誠歎之至時高皇產靈尊勅大物主
 神汝若以國神爲妻吾猶有^{謂汝} 疏心故今以吾女三穗津姬
 配汝爲妻宜領八十万神永爲皇孫奉^下 護乃使還降之略
 と有る是あり此時の御事なりけりト本朝事始小天
 磐笛文武天皇乃御宇止之但横笛代之事代主神製之

奉天孫瓊二許尊出齋部以磐石也。以祝天孫託其形似
胡茄云云。見えたるハ磐を以て笛ヲ製して天孫を
祝奉ら由小託ヨリハけさせ給へるなり。大社志宝器品目
小瑪瑙笛云物有る床ヨクて去年予が参詣し時國
造尊孫宿祢小就て拜見を許されたるを見奉るハ大
抵ハ横笛の狀小て微妙なる物なり。此類の物ハ
予と想像り奉るハ御事ありけれ又云く楯伊達本
朝無此製但有天押楯事代主命以天押楯與天狹弓進
天孫此則非後世之楯焉成務御宇始製也。有る天押
楯天狹弓の製今知べし。予と雖ハ若義を以考るハ

命を以て又供造百
八十餘之白楯又

天押楯云ハ神武天皇戊午年御紀ハ天皇ハ大御稜
威を畏いて天厭神と稱奉るが如キ意味を以て号け
天狹弓の狹ハ進む心小て大御勢を四方小張らせ御
在し坐べき豫事を託して奉らせ給へるなり。可き事
右ハ天磐笛の例を推して知べき者あり。但右ハ本朝無
此制と云ハ古ハ暗キ事あり。己ハ此一書ハ彦狹知神
為作有者ハ見之出雲風土記ハ布都怒志命ハ天石楯
又御鳥命為楯部ハ有る事小依て意字楯終ハ二郡ハ
各楯終郷有る右小引る常陸風土記ハ晉都大神ハ楯
見之神武天皇御紀ハ楯ハ盾而為雄詰焉又ハ登天石

日本書紀傳三十一

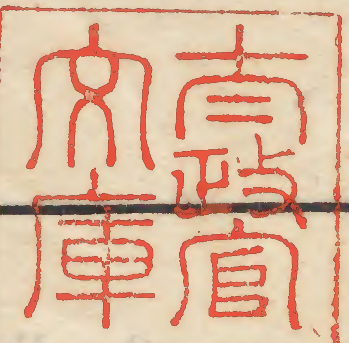
〇八百二十七

盾又崇神天皇御紀小赤盾黒盾の形有り何ぞ成務天
皇の大御代を以て起るむや此の甚く古より有來る
物ありども事代主神の此の誠歎の至を申させ給ふ
余り小右の物共小比へて天神御子を祝ひ奉らせ給
へる御事の御在り坐が爲ある事申すも更ありく
其天磐笛の胡笳の形小似たり云を以て考らふ其
物の事ハ勻端ハ是人捲芦葉吹之故曰胡笳云云又
ハ卷胡樂器李伯陽入西戎所作者といふ云ハ和名吹小
横笛律書樂圖云横笛本出於卷云云有て卷といふハ
西番より西戎といふ地あるハ横笛といふ胡笳といふ同類
の物ありけルハ天磐笛といふハ玉石を以て作れり横
笛ありしあり可く儲右小引る大社の瑪瑙笛を本朝
鱗旧物吉川廣家納り有ハ彼國小今在る物ありざル
ハ右の文武天皇乃御宇止之と有る以前小彼土の往
來絶ざりし頃吾朝より彼小賜はりし物の傳はれり

ハ豊臣公の彼國征伐ハ一時を得て大神の御許小
歸來れり少や如何ハ天磐笛といふ將欲き者あり近
頃海中より多く出る本草小謂ハ石煙といふ物を得
て天磐笛といふ云て己を欺き人を欺く輩の多在るハ
惡む可く且古書小力を用ひざらば儲全仁天皇十五年
御紀ハ云是時倭大神注進狀倭著穂積臣遠祖注進
字大水口宿禰而諡之曰太初之時期曰天照太神悉治
高以注進天原皇御孫尊專治葦原中國之八十魂神我
親治大地官者言訖焉云ハ大地主神之号起于是時矣
云以下
注進狀
有る此神託ハ太初之時といふハ此時小在
る事先輩ハ已小定云るハ如く我親爲大地官といふ由
ハ傳十九十小注り大地主神といふ名ハ此時小皇祖

天神より賜はる世給へる御名も其大地官を令治
給へる御名も右小大物主神小三穗津姫命を御妻
小賜はせたる小等しく天神より殊小親しく聞えさ
せ給へる御政小出させ給ひたる可し其大物主神の
天降く世御在り坐ける御事ハ駿河風土記伊穂原郡
條小御穂社所祭大己貴命又号御穂津彦御穂津比咩
命也と有下次小羽車磯田社離宮也大己貴命天孫降
臨之機爲顯其時大己貴命登天上奏可順條々忽来御
天日鷲大羽鷲羽車休御穂御崎と見えたる此大己
貴命と云々ハ實小ハ大物主神小て渡り世給ふ事

申すも更あり但右の文の趣小依る時ハ大己貴神小
も大物主神大國魂神及事代主神を領て参上り世御
在り坐けむと知へるが此ハ其心を得て見ると可
しりある也借其大國魂神ハ天降り世給へる御事ハ
出雲風土記小意宇郡飯梨郷郡家東南廿二里大國魂
命天降坐時當此處而御膳食給故云飯成神龜三年
改字飯梨
所見たる如く此ハ出雲國小落著せ給へる趣あり其
未官知小食師社と有ハ其神ハ御膳を聞食し跡
あり小こり此郷後小和名抄小ハ能儀郡小爲て其食
師社ハ今ハ飯成郷飯成村小立せ御在り坐と云り此



大國魂神^{其時}鎮^下一也御在^一坐^一社^一同記出雲郡條小
 梓築大社御魂社^一有^一を神名式小梓築神社^{名神}有^一
 其大穴持神社^一有^一右^一御魂社^一御事^一を上
 七百十^九小注^一が如^一此^一大已貴神^一荒魂^一を祀奉^一此
 御社^一ありけり^一決^一めて大國魂神^一を渡^一せ給^一ふ
 可^一御事^一ありけ^一其^一證^一神賀詞^一乃^一大穴持命^一乃^一申
 給^一云^一己命^一和魂^一八咫鏡^一取^一託^一倭大物主櫛^一履
 玉命^一登^一名^一手^一插^一天^一大御和^一乃^一神奈備^一坐^一云^一事^一有^一此
 其^一荒魂^一を^一佐^一處^一小鎮^一以^一聞^一え^一せ給^一ふ事^一御在^一
 坐^一右^一如^一大神^一御許^一小御魂社^一殊^一小鎮

